

第59回地域連携手帳委員会（略称：手帳委員会）会議記録

日時 令和5年3月21日(木) 13時30分～14時05分

会場 新津医療センター病院 大会議室

参加者 12名

1. 連携手帳の現状と問題点

- ・医療機関での手帳の使用状況。

月に7～8回程度、日常生活の状況、コミュニケーション頁などを利用。

施設で使用する頁以外を抜き取ることは避けて欲しい。

記録をコンピュータで入力して挟み込む。

介護報酬の関係で情報共有としての扱いになりうるか。

これが認められれば活用が更に進む可能性がある。

2. 連携手帳の発展的活用

- ・ACPのページの活用

昨年より「もしもシート」とセットに新規手帳に運用を開始している。

まだ、出始めたところ。

各種研修会などで医療従事者向けには啓蒙を始めている。

DNARの意思決定では経管栄養や人工呼吸などの希望を問うところがあるが意味を理解しているのか。メリットやデメリットを伝えている地域もある。

市民向けの啓蒙としてはあと一工夫必要。

- ・嚥下困難

歯科などでは嚥下困難と言って問い合わせがあるが。

→咀嚼の問題意外にもいろいろなケースがあり、食のサポートチームでは

嚥下110番を紹介している。ホームページや手帳にも連絡先が分かる

ように工夫してはどうか。

3 その他

- ・次回 令和6年6月20日(木) 13時30分

新津医療センター病院 大会議室

以上